

歯は口より、 ものを言い!?

小池デンタル
クリニック発



銀歯は虫歯になりやすい!?
—その2—
(コンポジットレジンでの治療)

前回、「銀歯は虫歯になりやすい」ことを説明しました。まとめると、銀歯は精度のよくない材料を用いるためにできる隙間から、再度虫歯になりやすいのです【図1】。



【図1】

銀歯にするとできてしまう隙間ですが、コンポジットレジンで治療を行うと隙間をほぼなくすることができます。

これはなぜでしょう?

銀歯でできてしまう隙間は、前回お話したように保険での型取りの精度が悪いことが大きな原因となることができます。銀歯は型取りを行います、コンポジットレジンでは型取りを行いません。直接口の中でつくりあげます。簡単に説明すると、まず、虫歯の部分を最小限削り【図2】、



【図2】

コンポジットレジンがくっつきやすいように表面処理をし【図3】、



【図3】

直接盛り付け【図4】、



【図4】

形、咬み合わせを修正します【図5】。



【図5】

このように形取りをしなくて、直接口の中で作業するため、虫歯が大きいほど口を空いている時間も長くなり、仕上がりは歯科医の腕やこだわりにより変化しますが、隙間はほとんどなくなります。また、コンポジットレジンには多数の色があり、見た目もきれいになります。

当クリニックでは約20種類を常備し、治療する歯に色の近いものを3~4色使用します。これは1色だけで治療するより仕上がりが本物に近くなるためです。歯の色は1色ではありませんからね。また、銀歯は人間の歯よりもとても硬いため、咬み合わせの歯を痛める(削る・揺らす)など、銀歯で治療した歯だけでなく、その周囲の歯やあごの骨の状態にも悪影響を与える可能性が高くなります。

銀歯の治療を続けることは『入れ歯への近道』と言ってもいいでしょう。

コンポジットレジンプラスチック樹脂で柔らかいため、咬み合わせの歯やその周囲を痛めつけません。部分的な大きさの銀歯の大部分はコンポジットレジンでやりなおすことが可能です。

「隙間がほとんどなく、きれいな歯になる!」、当クリニックではコンポジットレジンでの治療をおすすめしています。

院長 小池秀行

※イラストは「デンタルフラッシュ3 (株)Cyberデジタル」より引用